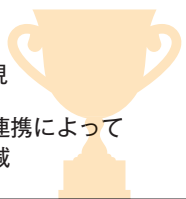


受賞のポイント

- POINT 1 AIを活用した画像診断技術で、塗装の腐食度を判定
- POINT 2 経験や勘に頼らない、均質な判定基準が実現
- POINT 3 専用アプリとサーバ連携によって現場の業務負担が軽減



サビの写真収集の様子



JUDGE アプリ劣化度判定画面

会社概要

商 号：株式会社 SRA 東北
設 立：1986 年 12 月
従業員数：100 名
事業内容：Webアプリケーションや、サーバ、ネットワーク構築といったIT環境構築のほか自社製品の開発なども行う。

お問い合わせ先

株式会社 SRA 東北

〒980-0803
宮城県仙台市青葉区国分町 3-1-2
アーバンネット定禅寺ビル 5 階
T E L：022-221-9061
F A X：022-221-7409
E-mail：biz-dev@sra-tohoku.co.jp/
U R L：https://www.sra-tohoku.co.jp/

鉄塔は塗装の劣化状況によって塗り直しが必要になります。従来は人間の経験と目で、その劣化度を判断していました。そのため判断が属人化し、誤った検査結果が発生してしまうリスクが指摘されていたのです。

収集したサビのデータでシステム開発を

同社では、まず鉄塔の写真を集めるところからスタート。2018年には事業部が立ち上がり、プロジェクトとして本格稼働し、それに伴ってサビのデータの収集も加速していったとい

います。

サビは、鉄塔が立っている場所によって色や状況が異なります。そのため、写真1枚1枚が大切なデータなのです。

暑さ、寒さの中での撮影作業は予想以上に大変だったといいます。しかし、そういった地道な作業を進めていく中で、社内ではプロジェクトを成功させたという強い意識を持つことができたといっています。

2019年、開発を進めてきた腐食劣化度診断システム「THE JUDGE（ザ ジャッジ）」がついに運用開始。これは、

AIを活用した日本初のシステムとなりました。

業務効率化に成功。今後のさらなる広がりに

このシステムにより、当初の目的としていた、劣化度の判断の正確化に加え、さまざまな業務も効率化が進みました。約400時間もかかっていた塗料計画の策定が、なんと80時間まで短縮されたのです。

さらに専用のアプリも開発。それを使うことで、現場ですぐにサビの判定が可能となり、業務の大幅な効率化にもつながりま

した。

「失敗を怖がらず、とにかく前進していくこと」がプロジェクト成功の要因だといっています。

今後同社では、蓄積した画像データから劣化度の推移や劣化度予測の仕組みを整えようとしています。それによって適切なタイミングでの塗装につなげるといったメンテナンスの高度化を目指すと共に、鉄塔以外でのAI活用の可能性を模索。今後とも事業拡大につなげていこうと考えています。

塗装の劣化度や腐食度をAIによって判定。
判定基準の安定化に貢献

チャレンジ精神と地道なデータ収集でAI活用の道を

受賞理由

- 鉄塔のサビの腐食度、劣化度をAIによる分析に成功
- 専用アプリの開発や画像システムの整備によって、現場の業務負担を軽減

AIシステムの活用を模索 たり着いたAI活用法

仙台市にある株式会社SRA東北は、Sier人材を有するIT企業のひとつ。金融系や電力系のシステム構築を得意とする企業です。

2016年、IBM Watson

OnのAIエコシステムパートナー契約を締結。AIシステムを活用した新たなサービス開発をスタートさせました。

新たに考えたサービスの数は100個以上。その中の一つが、『AI活用による鉄塔の劣化度（サビの程度）を測るシステム』でした。

株式会社 SRA東北とは？

1986年、仙台市で株式会社SRAの100%出資会社として設立。Webアプリケーションや、サーバ、ネットワーク構築といったIT環境構築に精通。「THE JUDGE（ザ ジャッジ）」を含む自社製品、自社サービスの開発にも取り組んでいる。

SRA Tohoku, Inc.

DXプロジェクトのメンバー



受賞者
株式会社SRA東北

受賞件名
人工知能技術を活用した次世代型インフラメンテナンスサービス「THE JUDGE（ザ ジャッジ）」

担当者
我妻 裕太氏
茂泉 和毅氏